



東側からの外観をみる



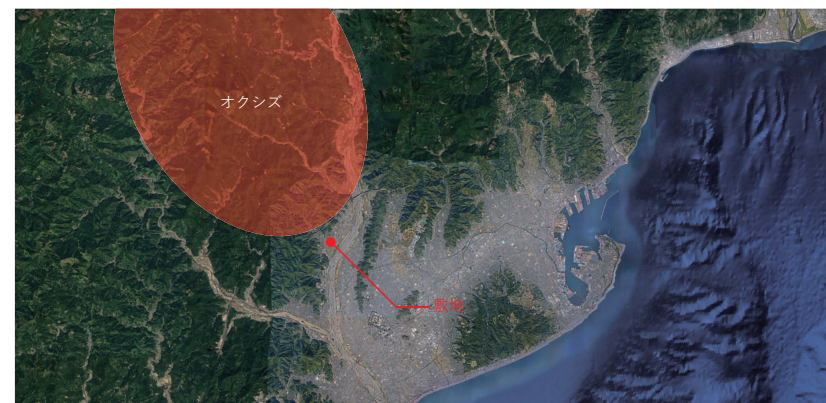
北側よりの外観をみる



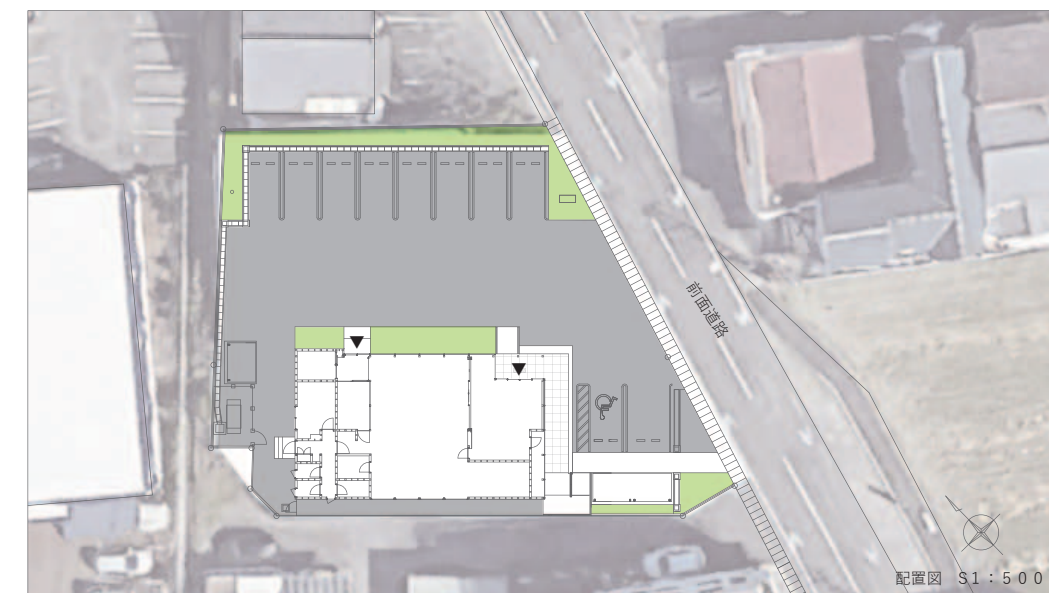
東側よりの外観をみる

しずおか焼津信用金庫羽鳥支店美和出張所

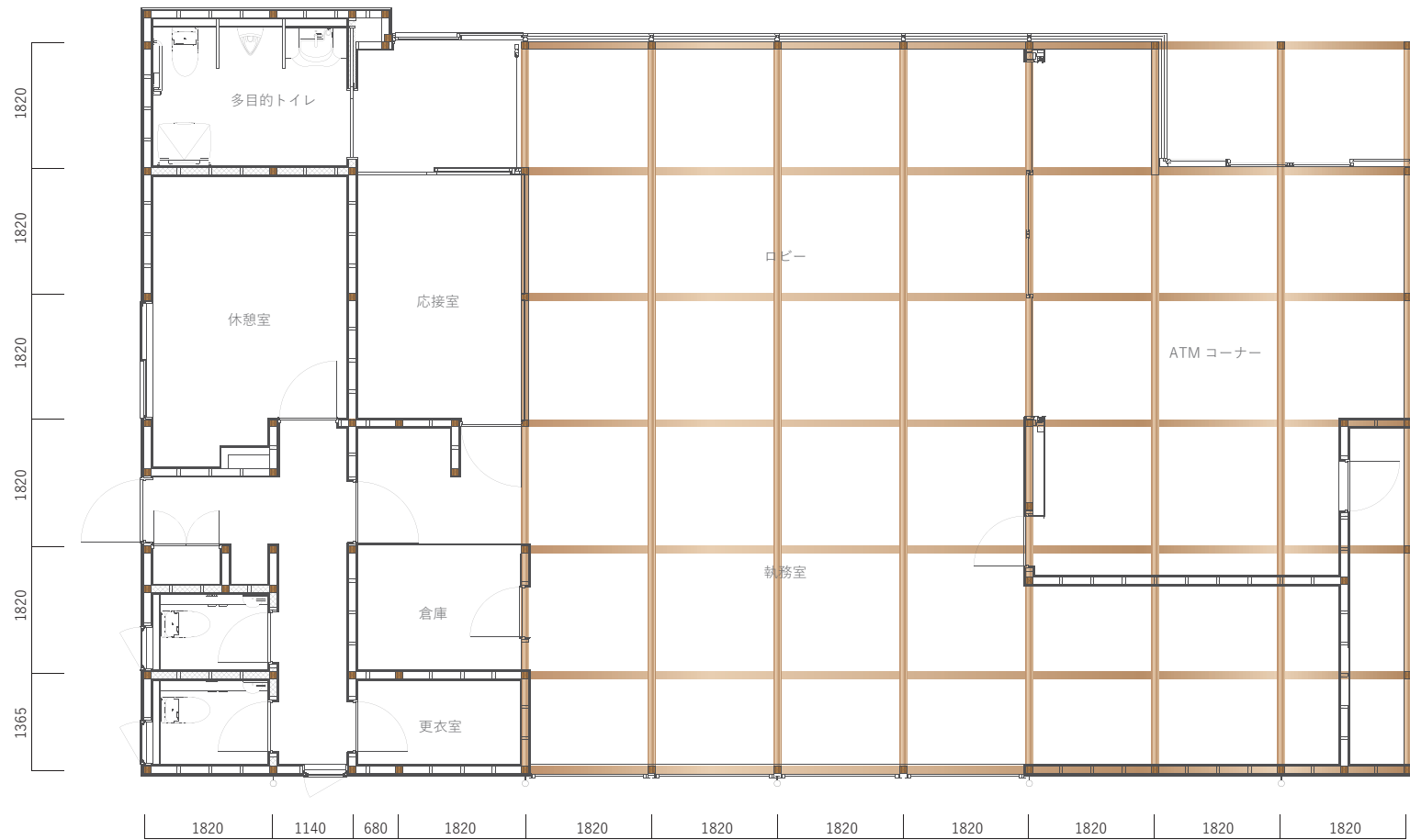
敷地は安倍川の西側に位置する美和地区。田んぼの耕作地として発展し、今でも田園風景が残る農業地域です。我々はこの地域に県内で初となる構造材に静岡市産材を100%採用した金融店舗を計画しました。銀行の役割はここ数年で急速に変わりつつあります。現金の預金機能は電子取引に移り変わり、金融店舗は窓口の相談、利用客とのコミュニケーション機能がより重要になっています。そのため私達はこの金融店舗が美和地区のコミュニティの拠点となり得ると考え、これにふさわしい建築を検討しました。こうしてできた建築は地元のオクシズ材を使い、地元の製材業、大工の手によりつくられた地産地消の建築として建ち現れました。



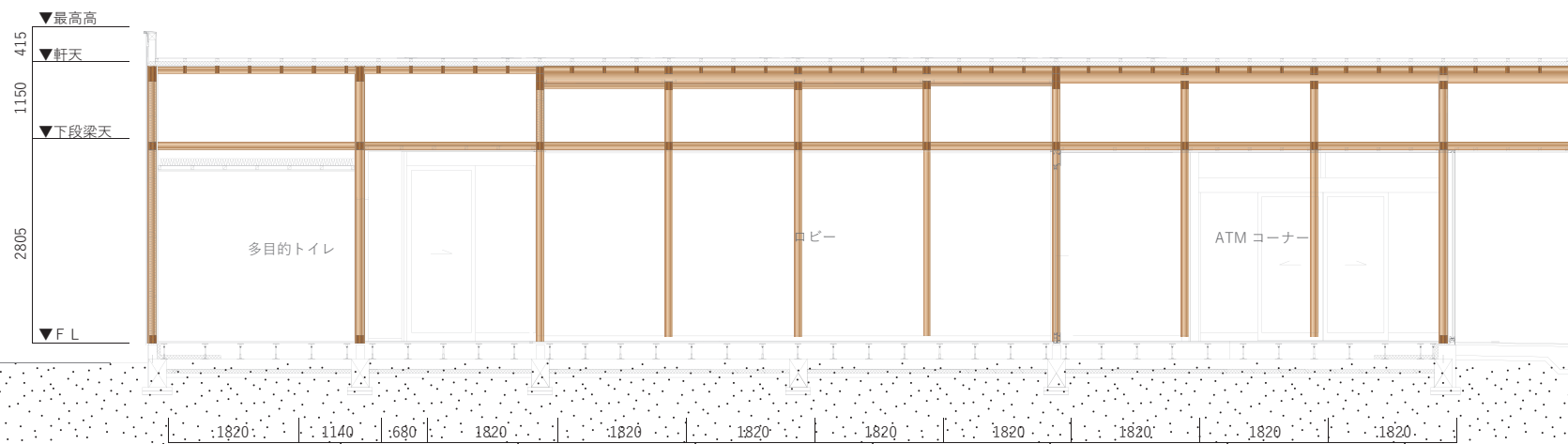
敷地は静岡市産材の供給元となるオクシズのちょうど入口に位置する。静岡市内へ木材を供給するちょうど結節点に位置し、製材業者も多い。



配置図 S1:500



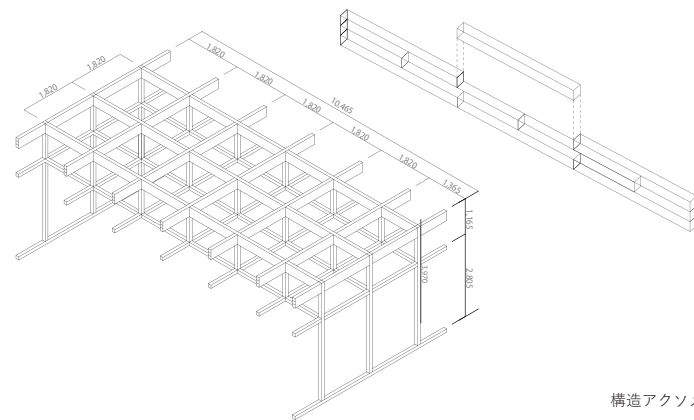
平面図 S1:100



断面図 S1:100

構造計画

ロビーは約4間の無柱空間・天井高も3.5m必要であるため一般流通材の木造でやるためには構造的な工夫が必要であった。まず大梁は105角の製材を3段に積み上げ集積した造作梁とした。積み上げた製材は脳天から釘打ちしていただくため地元製材業者で製作が可能である。またこの大梁の下段に1間の格子状に105角の水平材を架け、柱の座屈止めと耐風圧に対応している。これにより柱は105角という住宅製材材の断面で構成可能となる。オクシズ材は無等級材であるため机上での強度検討が難しい。そのため地元製材業者に協力頂き、実際に大梁をモックアップで作成したわみ量を計測し強度の確認を行った。



構造アクソメ



モックアップの確認



ATMコーナー



ATMコーナー



ロビー天井



ロビーの内装は立体格子がそのまま室内に現れた意匠となっている。施主の要望によりロビーの天井高は3.5m確保している。この部屋の面積で3.5mの天井高さをそのまま確保した場合、どこか間の抜けた印象になってしまう。それがこの立体格子架構によって天井に奥行きが生まれて天井面が曖昧になったような印象となった。これにより施主の要求する室の解放感とこの室面積にふさわしいスケール感が両立したものになった。

この建築では木の構造材がインテリアと建築の間のようなスケール感をもち室内に現れることを意識した。家具と建築の距離感が近くなればおのずと建築と人との距離感も近くなる。日常の中に建築が溶け込むように丁寧にかつ大胆な架構となったと感じている。